平成28年度 第3回 向日市国民健康保険運営協議会会議録

1 日 時	平成29年1月25日(水) 午後2時～4時
2 場 所	向日市役所 中部防災拠点2階 会議室
3 出席委員	楠本会長、河合副会長、芝田委員、香本委員、梅地委員、鈴木委員、森田委員、堀委員、山口委員、中川委員、森川委員、大島委員、高橋委員、山本(哲)委員、山本(加)委員(15名)
4 欠席委員	なし
5 傍聴者	6名
6 議 題	(1) 標準保険料の試算状況について
(2) 今後の保険料のあり方について
(3) その他

議事(要約)

- 1 市長あいさつ
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議題

(1) 標準保険料の試算状況について

<事務局からの説明>

- ・2回目の試算値の試算条件は、「平成29年度における標準保険料を試算」「医療費の伸びは約4%」「平成30年度からの1,700億円の公費拡充による財政効果は考慮せず」である。

<委員からの意見>

- ・本市の財源不足額について、前回は1億3,000万円、今回は2億4,000万円だが、その違いは。
- ・広域化がなかったとしても、2億円程度の値上げをする必要があったかもしれないということか。逆に言えば、広域化によって、本市の適正な保険料水準がわかるようになったということか。
- ・借入金の返済が毎年4,000万円あるが、それは改定案に含まれているのか。
- ・保険料収入でまかなう以外に返済方法があるのか。

(2) 今後の保険料のあり方について

<事務局からの説明>

- ・改定案として、納めるべき納付額から、保険料改定に伴う軽減増加分の補助金、収納率向上1,000万円、保険者努力による調整交付金1,000万円を控除し、平成32年度までの償還金4,000万円を足しあげ、3年で標準保険料に追いつく案(案1)、4年(案2)、5年かける案(案3)を作成。
- ・案1では標準保険料に追いつく時点で、約4億8,000万円の累積赤字、案2では5億9,000万円、案3では7億1,000万円の累積赤字が発生。
- ・改定の最終年度の保険料と現行との差は、全世帯の半分以上を占める「基礎控除後所

得 50 万円未満」の世帯で、年額 8,040 円。一番差の大きい「基礎控除後所得 500-600 万円未満」の世帯は約 50 世帯で、年間 106,430 円。

- ・ 現行の保険料水準は同じ二次医療圏に属する他の 2 市に比べて向日市は低い。
- ・ 直近 8 年間で保険料を改定していない市（資産割のある市は除く）は府下で向日市を含め 2 市だけ。

<委員からの意見>

- ・ 市によって状況は違うと思うが、A 市ではこんなに一般会計からの法定外繰入金を入れてもらっていない。B 市では一般から繰り入れるときは保険料も上げるというルールがあるようだ。一般会計には国民健康保険被保険者以外のサラリーマンの税金も入っているから、そういった意味では、医療費の伸びに合わせて保険料を上げないといけない。また、医療費が下がったときには保険料も下げたりもしている。医療費に合わせて、保険料も上げ下げするもの。
- ・ コンスタントに見直していれば、細かい上がり幅になる。
- ・ 他市で大幅な値上げの際に滞納が増えた事例などはないか。
- ・ 向日市はかかる医療費が多いのに、ずっと保険料を上げていない。保険料が上がるのは仕方がないと思う。
- ・ 綾部市の広報について、広報では反応がなく、一軒一軒の通知が届き、いざ保険料が上がるとなって苦情等があったということは、市の財源についての周知が足りていないということ。急激に上がることになったのは、今までの市の見通しが甘かったから。一般財源からの繰り入れは国民健康保険以外の方に迷惑をかけているということであるので、市民のために頑張ってもらいたい。広域化は保険料の改定にとって良いチャンスである。私たちは議論の場にいるので状況が分かったので、皆さんに知らせるようにしていただきたい。納得できれば、標準保険料に追いつくまでの期間は 3 年でも、5 年でも大差はないと思う。
- ・ どの市も保険料を上げざるをえないのか。
- ・ 3 つの改定案があるが、標準保険料に追いつく時期を延ばせば延ばすほど累積赤字が増えていく。
- ・ 向日市は 11 年間値上げをしていない。実情を聞けば、今までの安かったという思いになるが、それを知らない市民の方は上がり幅だけでびっくりすることになると思う。「今までの安かったこと」「府下の中で医療費は高い割りに、保険料は安いこと」を説明すれば、そこは避けられると思う。
- ・ 案では標準保険料まで引き上げる期間を 3、4、5 年と設定しているが、例えば 3 年で追いついた後も医療費の伸びによっては値上げの必要があるのか。
- ・ 標準保険料に追いついた後も、ずっと上がり続けるのであれば、市民は不安に感じるのではないか。
- ・ 広域化によるメリットとして、急激に保険料が上がるのを防ぐための補助金や貸付などもあるかと思う。最初、標準保険料まで上げるのが大変だが、上がってしまえば安定した運営になるかと思う。
- ・ 自主努力として 1,000 万円を過去の滞納保険料から確保するということだが、無理のない額なのか。

- ・ 自主努力として、特別調整交付金の 1,000 万円を見込んでいますが、将来にわたって確保できるのか。
- ・ 標準保険料に早く追いつけば、後は微調整だけで良いということ。遅くすれば累積赤字が増えるし、しんどくても早く追いついた方が良いと思う。
- ・ ローンと一緒に、長くすれば負担が大きくなる、しんどくても早くした方が良い。お互いが助け合っていく保険なので、若い人が減って高齢化が進んでいる以上、安くはならないと思う。
- ・ 年度初めに納付書が届いたときは、驚くでしょうが、一時のことだと思う。
- ・ 半分以上の世帯が軽減を受けていますので、実際の上がり幅も軽減されることを考えると、3年かけてでも、5年かけてでもあまり変わらないと思います。
- ・ 医療費が増えていっている以上、悠長なことは言ってもらえない。
- ・ 被保険者を代表する立場として、3年でも良いと思う。
- ・ 大きく金額が変わる世帯に対して、減免や猶予の制度はあるのか。
- ・ 標準保険料まで引き上げる期間は短い方が良いという意見が多かったが、逆に長い方が良いという意見があれば聞きたい。
- ・ 改定によって、保険料の収納率が下がらないか。
- ・ 保険料を改定しても、何もしなくても収納率に影響がないということではない。
- ・ 施策として見込みが甘くないかをこの場で検討しておくべきだ。向日市は収納率 95 % で府下でも 5 番目、保険料を上げつつ、収納率も上げるのは難しいけれど、やっていたかなければいけないということだ。
- ・ 広域化後は毎年、標準保険料が見直されることからすると、逆にその後は大きな変化がなくなるというメリットがある。そういった意味で、第 1 案の 3 年で標準保険料に追いつく案が一番良いのではないかと思う。
- ・ 被保険者の方の負担が上がるということに間違いはないので、そのあたりの配慮などを含めたうえで市として考えていただけたらと思う。
- ・ 被保険者代表の方は、みなさん早期に保険料に追いつく方が良いという意見ですか。
- ・ そうだ。
- ・ 広報の仕方をいろいろ考えて、収納率などもしっかり頑張ってもらいたい。
- ・ 委員を始めた 10 何年前は収納率が悪くて、その後、職員はすごく頑張って、今の収納率まで上がった。その努力は認めてあげてほしい。すごく苦労したと聞いている。
- ・ 軽減制度について広報してほしい。